

教育実習生・初心者を対象とした学習指導案作成支援システムの提案

生駒 侑夏

学習指導案とは、教員によって作成される授業の計画書であり、授業指導の質の向上・計画性の確保、授業内容の共有に重要な役割を果たすものであるとされている。学習指導案の内容は、ある程度決まっているが、唯一の従うべき形式は存在しない。そのような中で、教育実習生が様々な理由で学習指導案の作成について十分な指導が得られなかった場合、参考にできるのは、インターネット上の学習指導案である。一方でインターネット上には各都道府県の教育センター等で学習指導案が公開・共有されているが、サイトごとに掲載方法や掲載場所が異なっているため簡単にみつけれられない、十分な検索機能がない、数が少ない、網羅的でない場合がある、求める学校種・教科・単元の指導案が見つけにくいなど、利用に難があった。

本研究では、教育実習生などの、学習指導案の作成に不慣れな人が参考になる学習指導案を見つけたり、学習指導案の作成が簡単にできたり、作成の際の支援ができるシステムを提案する前段階として、各都道府県の教育センター等における最新の指導案の公開状況について、学習指導案に関連する情報をまとめたサイトを足掛かりとして、現在インターネット上で学習指導案を公開しているサイトについて調査を行った。同時に、学習指導案の書き方に関する指南書の収集も行い、初心者が学習指導案を作成するのに支援するためにどのような指示内容が必要なのかについて、分析を行った。

本研究により、現在学習指導案を公開しているサイトの状況と、高等学校情報科の学習指導案の公開状況について、最新の情報が得られた。また、学習指導案の作成のための指南書にどのような指示があるのかについてわかった。

これを受けて、本研究では学習指導案の作成を支援するための支援システムの提案を行った。提案システムは、学習指導案を集積するデータベース・学習指導案の作成のための文書成型システム・指南書の内容を活用した入力支援システムの三つの部分からなる。

今後の課題として、システム構築とシステムの運用がある。一つ目の提案システムの仕様について、詳細を確定させ、システムも構築を行うことが次の課題となる。二つ目の提案システムの運用について、本提案システムは、構築するだけでなく、データの蓄積、利用者の増加により、更に価値が高まるものである。また、本研究の目標に照らして、教育実習生が気軽に利用できるものである必要があり、ユーザーの金銭的な負担を回避しながら継続的に運用することが今後の課題となる。

(指導教員 大澤 文人)